

西濃圏域合併協議会

ごみ問題で提案を否決

4月28日の西濃圏域合併協議会で「ごみ・し尿収集運搬及び処理事業」の会長案が、採決の結果賛成22人で、出席者72人の過半数が得られず否決され、常任委員会に差し戻しとなりました。
(調整方針案…裏面参照)問題となった「ごみ処理手数料」について、各委員の発言を紹介します。

大切なことはごみの減量化だ (池田)

池田A：池田町ではごみ袋1枚40円で、週1回程度のごみ出しでごみの減量化に努めてきたが、この調整案では1枚10円、週2回のごみ出しができ、ごみをもっと出してもよいということか。今の問題意識はいかにごみを減らすかである。なぜ手間ひまのかかることをやるのか。それだけで人件費がかかる。

池田B：不燃ごみも袋に入れることになっているが、今までコンテナ方式で分別してきた。ごみ袋も新たなごみ。

大垣A：大垣市は無料シール制度である。リサイクル委員会では、手間が増えること、10円でも有料化になることなどで反対の意見があった。10円は原価として市民に納得してもらおうぎりぎりの妥協策である。

ごみ有料化で減量化 (神戸・養老・輪之内)

神戸：ごみ袋1枚50円で定着してきた。有料化でごみの減量化をはかってきて定着してきたのに。

養老：ごみ袋1枚40円の受益者負担でやってきた。調整案の引き換え方式は2度手間。

関ヶ原：常任委員会に差し戻して、十分討論してはどうか。

輪之内：ごみ袋50円が5円になると、減量化の努力が無くなる。大垣市は市民に対して説得をするべき。

ごみ問題行政の責任 本来は無料(大垣)

大垣B：ごみ問題は当然行政の責任で行うべきもの。本来は無料である。「金をとればごみの減量化になる」というのはまちがいの。

合併の無理な統一に問題 市民参加で論議を!

市会議員 笹田トヨ子

大垣市は世帯人数に応じて無料のごみ処理券が発行されていますが、他の自治体では有料のゴミ袋を購入しています。

今回の調整案は指定ごみ袋制とし、引換券方式で世帯の人数に応じて一定枚数までは1枚10円(小は5円)で購入できるものです。この案は、大垣市民にとっては、シール制から指定ごみ袋の引換券方式になり1枚10円と有料化になりますが、ある程度大垣市の実態に沿ったものでした。しかし、この調整案が否決され常任委員会に差し戻されました。

他自治体のごみ処理方式に沿ったものになると、ごみ袋1枚40円から50円となるなど、今まで大垣市の方式とは大きく変わることもありえます。

今まで合併の調整案についてリサイクル委員会で検討したということですが、殆ど市民は知らないなかで進められてきました。

今回の問題は、それぞれの自治体で進めてきたごみ施策の経緯や地域の事情を無視し、合併のためにごみ処理方法を統一させるところにあります。

ごみ問題は行政の責任であるとともに、住民の理解と協力なしには、本当の問題解決はできません。わが街の環境問題やごみ問題をどうするかといったことは市民の参加でしっかりと議論を尽くすことが大切と考えます。

